



新入職員奮闘記

つぐま ひかり
津隈 陽加里 令和7年4月1日採用 (3病棟配属)

4月から3階の療養病棟に勤務して
います津隈陽加里です。現在は点滴
の介助だけでなく、療養病棟では寝
たきりの方も多いため、患者さんの
日常生活の援助などさまざまなこと
に取り組んでいます。

また、療養病棟ではやりがいを持って取り組め
る一方で、看取りへの対応など厳しい現実と直面
することもあります。先輩方に教わりながら日々
技術や知識を深めて行っています。

また、4月に比べ、技術が徐々にスムーズに行
えるようになっていくことを実感できるようにな
りました。しかし、慣れないことも多く、失敗も
あり、看護師に向いてないのではないかと考える
ことも多々ありますが、先輩方に優しく支えてく
たださるだけでなく、患者さんやそのご家族から
「ありがとう」という感謝の言葉のおかげで心の
励みになっています。

これからは患者さん一人ひとりに寄り添える看
護ができる看護師になりたいと思っています。そ
のため、日々知識や技術を習得できるよう頑張
ります。



病院豆知識



病院の売店ってどんなところ？

今回は、病院によくある売店に
ついて紹介いたします。写真のと
おり上天草総合病院にも売店はあ
ります。

では、病院売店の歴史ですが、
明治以降、西洋式病院が導入され、
病院が社会に定着するにつれ、売店もその存在が
確立されます。当初は突然の入院が必要となる
「もしもの備え」の側面が強かったのですが、単
なる日用品からはじまり、介護用品、医療関連用
品(ガーゼ、包帯など)、食品、書籍、雑貨など
患者様の入院生活の質(QOL)を高めるために品
揃えが充実してきたようです。

私自身、5年前までこちらに勤務するまでは全
国転勤ありの会社だったので色々な病院を訪問し
てきましたが、今では都会の大規模な病院では大
手コンビニ店やコーヒショップが入ってき
ています。

逆にビックリしたのですが、当院の売店では、
新鮮な野菜!ポリウムたっぷりの弁当!など都
会では真似できないものが並んでいます。受診さ
れる日にお時間がございましたら、病院の売店に
寄っていただけたら新しい発見があるかもしれま
せんね。(薬剤科 田中)



編集後記

当病院1階売店の野菜が新鮮で安い。私、昨年から
お昼のお弁当を自分で作りはじめました。昨年は猛
暑の影響などで野菜価格などが高騰。お弁当の材料
まで自分で買うようになって初めてみんな苦勞しな
がらご飯作っているんだな、と認識しました。今な
ら感謝し優しくなれます。反省。(ノブリン)

◆がんサロン
毎月第3木曜日 13:30~ 当院6階講堂◆心臓リハビリテーション教室
毎月第4金曜日 13:30~ 当院6階講堂*日程変更がある場合があります
興味のある方はお問い合わせください上天草市立上天草総合病院
住所：866-0293 熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸1419-19
電話：0969-62-1122(代) FAX:0969-62-1546(代)URL：http://www.cityhosp-kamiamakusa.jp/
Eメール：kamiama@cityhosp-kamiamakusa.jp
発行：上天草市立上天草総合病院広報委員会

※上天草総合病院通信あこころは、病院の窓口にありますので、ご自由にお取ください。

診療がもっとスムーズに
～進むマイナ保険証の活用～

診療受付の混雑緩和や事務負担の軽減を目的に医療機関でのマイナンバーカードの利用が注文されて
います。便利な受診環境を実感していただくためにも当院の受診時はマイナンバーカードをご持参してい
ただくことをおすすめします。

●マイナ保険証を利用するメリット

・薬剤情報、特定健診情報を活用した、より適切な診療

過去の服薬歴などを確認することで、重複投薬や飲み合わせの
リスクを減らし、より安全な医療につながります。

・転居、勤務先変更後も手続き不要で安心

保険証の切り替えを待つ必要がなく、最新の保険情報が自動で
反映されます。

・高額医療費制度の続きが簡略化

限度額認定証の事前申請が不要になります。



職員がサポートしますので、ご安心ください

●使い方は簡単!

受付のカードリーダーにマイナンバーカードをかざし、画面の案内に沿って操作するだけでご利用いただけます。
また、スマートフォンのマイナポータルアプリを利用し、保険情報を確認することもできます。
ご不明な点がございましたら、職員がサポートいたしますので、お気軽にお声掛けください。

Q.従来の健康保険証は
いつまで利用できますか。

Q&A

Q.マイナンバーカードだけで、
診療の受付もできますか。A.令和7年12月2日時点で有効な健康保険証は
最長1年間、引き続き利用できます。A.当院では、マイナンバーカードだけでは診療の受付は
できません。従来通り、診療カードを使って再来受付機
で受付をしていただきます。Q.マイナンバーカードを健康保険証として
使うには市役所などで手続きをしなければ
ならないのですか。Q.窓口への持参が不要となる証類は
どのようなものがありますか。A.当院の受付窓口を設置している顔認証付きカード
リーダーで簡単にマイナンバーカードを健康保険証
として利用登録ができます。A.保険者証類、被保険者資格証明書、限度額認定証・
限度額適用・標準負担額減額認定証、特定疾病療養受
給者証等の持参が不要となります。
ただし、子ども医療費受給者証や指定難病医療受給者
証等の公費医療の受給者証は、従来通り窓口への持参
をお願いします。

上天草総合病院退任に寄せて

～ 宇宙とゆらぎの中で ～

上天草総合病院長 脇田 富雄



令和8年3月、私は再び上天草総合病院を退任する。平成7年にこの地へ初めて赴任し、平成9年に一度別れ、平成17年に再び戻ってきた。そして今日まで、1年3カ月は別地に赴いたこともあるが、循環器内科部長、診療部長、副院長、院長として21年を過ごした。

振り返れば、私の医師人生の中心に、常に上天草総合病院があった。平成17年、再赴任した年、日本では郵政民営化が国を二分する議論となり、世界ではインターネットと携帯電話が人々の生活様式を急速に変え始めていた。医療の世界でも電子カルテが導入され、診療の風景は静かに、しかし確実に変貌していった。あれから時代は進み、東日本大震災、熊本地震、COVID-19パンデミックという、人類の無力さを突きつける出来事を私たちは経験した。宇宙の歴史から見れば一瞬の出来事だが、私たちの人生に深く刻まれた歳月である。

若き日に私は「宇宙とゆらぎ」という文章を院内誌「あこや貝」に書いた。宇宙は「無」から生まれ、わずかな「ゆらぎ」から「有」へと展開した。老子は二千年以上前に「無は天地の始、有は万物の母」と記し、荘子は天地自然に身を委ねる自由な生を説いた。その後30年を生きた今、医療技術は驚異的に進歩したが、人間の存在の本質は何も変わっていないと実感している。循環器診療とは、まさに「ゆらぎ」と向き合う仕事である。心拍、呼吸、血圧、すべてが微妙な揺らぎの中で生命は維持される。重症になればなるほど、そのゆらぎは失われていく。私たち医師の役割は、その失われたリズムを取り戻す手助けをすることだ。医療とは、宇宙の原初の調和へ人を戻していく営みなのだ。私は思っている。



この21年、病院の経営環境は厳しさを増し、高齢化は進み、医師不足や働き方改革など新たな課題が次々と現れた。それでも上天草総合病院は、地域の人々の命を守る拠点として立ち続けてきた。循環器内科部長として現場に立ち、診療部長として診療全体を見渡し、副院長として経営と現場の狭間に立ち、院長として病院全体を預かる立場になった今、医療とは個人の力ではなく「場」が生み出すものだと感じている。コロナ禍では、世界中が混乱し、人々の不安が渦巻いたが、上天草総合病院の職員は誰一人逃げることなく、それぞれの持ち場で役割を果たし続けるその姿に、私は老荘思想の「無為自然」の真意を見た。無理に抗わず、しかし為すべきことは為す。流れに身を委ねながら、自然に最善を尽くす。その姿こそが、真の強さなのだろう。私自身、忙しさの中で心を亡くしかけた時期もあった。しかし空を見上げ、海の音を聞き、静かに呼吸を整えると、不思議と心拍のゆらぎは戻ってきた。自然に触れ、何もしない時間を持つことが、人を再び生かすのだと、今だからこそはつきり分かる。

私のこれまでの人生は上天草総合病院とともにあった。患者さん、仲間、支えてくれた家族、その全てが私の小宇宙を形作っている。これから私は、次のゆらぎの中へと歩み出す。荘子の言う「逍遙」の境地に少しでも近づきながら、残された時間を静かに、自由に味わってきたい。

最後に、上天草総合病院で過ごしたすべての年月に、心から感謝を申し上げたい。この病院で生きた時間は、私の人生そのものであったと思う。本当にありがとうございました。



看護学校News

地域が育てた若き力 旅立ちの春

これまでの3年間、座学と実習で様々な経験を重ね2月15日に看護師国家試験を受験しました。3月2日に47期生29名が晴れた思いで卒業をむかえ、新たな生活へ出発します。

今までたくさんの講師や地域の方々に大変お世話になりました。卒業できることに感謝の気持ちを忘れることなく、看護師として当校の教訓にある「いたわりの心」を深めてほしいという願いと共に、希望を膨らませ旅立っていく卒業生に今までと変わらず応援していきたいと思います。(47期生担当)



健康管理センター便り

健康づくりを率先垂範

～あるスタッフの小さな挑戦～



毎年3月1日から3月8日は「女性の健康週間」です。日頃より皆様の健康の保持増進を推進する立場として、また自分の体を自分で守るため、健康のレベルアップを目指そうと心に決めました。まずは、体重測定を毎日行い、現実を受け止め、じっとしている時間(座位)を減らし、立位での時間を増やすという取り組みに挑戦中です。

日頃の仕事内容にかかわらず毎日「日中+10分、

夕方以降に+10分の1日合計20分普通歩行以上の活動を増やす！」ことと「睡眠時間7時間以上確保！」を目標に掲げました。挑戦の途中経過はときどき掲載します。半年後、良いご報告ができると信じ取り組みます。なんとなく、運動不足だと感じているあなた！厚生労働省アクティブガイド～健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023～「出典：厚生労働省ホームページ」をチェックしてみてください。 QRコードから閲覧できます→



きららの里便り

きららの里に幸せの灯り クリスマス会にぎわう

令和7年12月25日、当施設にてクリスマス会を開催しました。

当日は龍ヶ岳保育園の園児の皆さんが、かわいらしい踊りや元気いっぱいのお歌を披露してくれました。発表後には、園児による肩たたきのプレゼントもあり、ふれあいのひと時を楽しんでいただきました。また、嬉しいあまりに涙ぐまれる利用者さんもおられ、心あたたまる交流を通して、思い出に残るクリスマス会となりました。

龍ヶ岳保育園の皆さん、ありがとうございました。



事業管理者の独り言～迷惑電話防止～

REC

最近、市役所や郵便局に電話すると「この通話は、サービス向上のため、録音させていただきます」というアナウンスが流れます。アナウンスが終わるまで用件を話すことができないし、イタズラ電話ではないかと疑われているみたいで、モヤモヤすることはありませんか。最近、上天草総合病院でもアナウンスをするようになりましたが、録音を聞き直して、患者さんに間違った情報を伝えたことがわかったときは、連絡することができるので、結構、役にたっているのです。ご不便をおかけしますが、ご理解をお願いします。

追悼特集

逆境を力に変えた発想力

岡崎 禮治先生 永眠

岡崎先生は1964年当院開設と同時に初代院長として着任され、以後40年にわたって地域医療の発展に多大な貢献をされました。岡崎先生は地方の病院でも頑張れば熊本が一番、日本で一番の病院になれると考えて、いろいろなアイデアを実行に移されました。なお天草には「上島」「下島」のふたつの島がありますが、岡崎先生が「上天草」の地名を考案されたと聞きました。

病院玄関正面の高いところに掲げられた大きな油絵が岡崎先生の作品だと知っている人は少ないと思います。病院長退職の翌年、新病院の完成を祝って寄贈されたようです。満開の桜の下には海につながる道があり、3人の人が立っています。ひとりは杖をついて、海には船が浮かび、ツバキや水仙も咲いています。スケッチをもとにした絵ではなく岡崎先生の心の中にある上天草の風景なのでしょう。この地に多くの功績と思い出を残してくださった先生は、令和8年1月3日、永眠されました。謹んで岡崎先生のご冥福をお祈りします。

(上天草市病院事業管理者 船曳 哲典)



岡崎 禮治先生の功績

経歴

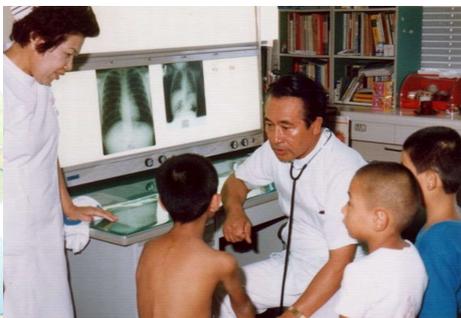
- 1945年 (17歳) 陸軍予科士官学校在学中に終戦
- 1952年 (24歳) 熊本大学医学部卒業、第2外科入局
- 1962年 (34歳) 山鹿市立病院 副院長
- 1964年 (36歳) 国民健康保険龍ヶ岳町立上天草病院 初代院長
- 1989年 (61歳) NTT九州病院 院長を兼務し、同院を再建
- 1990年 (62歳) 上天草病院 名誉院長
- 1991年 (63歳) 熊本県教育委員会 委員長
- 2004年 (76歳) 上天草総合病院 非常勤退任
- 2026年 (97歳) 逝去

主な表彰

- 日本医師会 最高優功賞
- 勲五等双光旭日章
- 熊日賞
- 龍ヶ岳町 名誉町民 (第1号)

病院のあゆみ

- 1964年 龍ヶ岳町立病院開設、ベッド数70床・3診療科
- 1965年 日本で最初の町立看護学校開設
- 1969年 日本初の小児喘息専門病棟 (28床)
- 1971年 128床使用許可、自治体病院初の健康管理センター開設
- 1972年 天草大水害、壊滅的被害を受けるが翌日より診療再開
- 1975年 180床使用許可
- 1978年 院内託児所整備
- 1979年 人工透析開始
- 1984年 県下11番目の「総合病院」呼称許可
- 1988年 第5回日本小児難治喘息研究会主催
- 1991年 新病院開院
- 1994年 195床使用許可
- 1995年 「きららの里」開設
- 2004年 4町合併による上天草総合病院発足



診察風景



第5回日本小児難治喘息研究会



岡崎 禮治先生を偲んで

先生、いつかはお別れがくることは理解していたつもりでも寂しいです。悲しいです。

以前、奥様から「俺は百まで生きる、と言うんですよ」と、お聞きしたことがあり、ぜひそうであって欲しいと願いつつも昭和三年生まれの先生が九十五歳となられた頃から朝一番に新聞の(おくやみ覧)を見ては今日もご無事で良かったと手を合わせ安堵しておりました。

昭和三十九年七月、上天草病院の開院を間近にして当時の辻本市之助町長他有志の方々から強く懇願され(熊大病院教授も有望視される中)、断りきれずに三年の約束で初代院長と成り、(先生三十六歳)、以後四十年間、地域医療の向上に尽力されました。当初七十床、四診療の病院は二百床の総合病院となり、翌年には看護学校並びに小児喘息センターを併設して優秀な人材育成に貢献され又、小児喘息センターは厚生省の小児喘息治療研究機関として(入院料国庫負担)、高く評価されテレビや視察が相次ぎ注目を浴び、対応に追われましたネ。

先生が、職員に機会ある事におっしゃっていた言葉に“禍い転じて福となす” “楽しくなければ病院でない” “継続は力なり”がありますが、正に、このへき地の過疎の町で幾百の苦難を福に転じつつ、全職員と共に夢と希望を追い求め、大胆な発想と決断・実行で数々の日本一も打ち立ててこられました。

仕事では、一斉の妥協を許さぬ厳しさでしたが、成しとげた後の充実感、達成感、満足感を味わう学びの場であった事に感謝しかありません。

昭和四十七年七月七日(開院九年目)の天草大水害では一瞬にして倒壊した病院の全容を目にした時は、とても再建など不可能で、これで終りかと思いましたが、先生は即座に「今こそ病院が必要とされる時だ」と翌日から長靴姿で先頭に立ち、診療・排土作業に明け暮れ又、再建のために上京して当時の総理大臣田中角栄氏に直談判する等、あらゆる手を尽くして復興を成しとげられました。医師としての学識・技術はもとより、管理者としても優れた業績を上げ、院内外でも数多くの功績や賞も授与され平成十五年には龍ヶ岳町名誉町民第一号として賞讃されています。平成十六年に職員及び町民一同他、多くの方々の御賛同で玄関脇に設置した銅像は今も変わらず病院の行く末を見守り優しく微笑みかけてくれています。先生の下で過ごした四十年余りは人生で最高の幸せな充実した思い出多き時間だったと、思い出しては胸が熱くなります。

これからも玄関脇の先生にお会いしては声掛けをしたり、握手をしたりして先生を偲んでいきたいと思えます。先生のご恩は一生忘れません。誠に有難うございました。(元秘書室長 森島 ツゲ子)

皆様、上天草総合病院玄関ホールの銅像の岡崎禮治先生をご存知の方も多いかと思えます。先生は、東京オリンピックの年、昭和39年離島であった龍ヶ岳町に70床の上天草病院が建設され初代院長として招聘されました。翌40年には准看護学院、喘息学級、歯科、人間ドック開始、その後も地域に求められる病院として成長を続けました。平成3年には195床の総合病院に、健康管理センター、老健施設等々を備え住民の健康予防から治療、福祉を担う地域医療のモデルケースとなりました。小児喘息治療では、その名を全国に広めました。看護教育では約2000名の卒業生が全国で活躍中です。昭和46年には断水に悩んでいた龍ヶ岳町の水不足解消の為、芦北町からの海底パイプでの取水事業のまとめ役を努められ、町民の環境の向上にも大きく貢献されました。先生は、幅広い人脈を駆使した情報を基にAIを搭載したブルドーザのごとく病院職員を叱咤激励し育てられた様な気がしています。

先生が築かれた恩恵のおかげで今の私たちの生活が続いています。先生安らかにお休みなさい。

(元事務長 瀬脇 一喜)

昭和47年7月6日、大水害で病院、看護学校は流され存続が危ぶまれた時、先生は当時の田中角栄総理大臣に直接懇願され、病院と看護学校はもとより、看護学生と地域医療も守っていただきました。

そして、今、看護学校や病院が存続していますのは、当時の先生の英断のお陰と感謝申し上げます。2025年9月の同窓会には、お元気なお姿のビデオメッセージをいただきましたのに、こんなに早くご逝去の報に接するとは思いませんでした。

本当に長い間、ご指導いただきありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

(元看護部長 梅本 房子)

平成19年に閉所になった小児喘息センターでは、毎週火曜日に岡崎先生を中心に病棟運営カンファレンスが行われていました。入職当初良かれと思い発言すると「若造が生意気に」と…発言しないなら「意見を延べなさい」と…どちらにしても叱責され緊張感で憂鬱になった日々を思い起こします。

「ピンチはチャンス」を有言実行で病院を成長させ、「楽しくなければ病院では無い」と互助会行事では皆と戯れ、全職員に夢と期待を抱かせてくださったのが岡崎先生でした。

当院も開設61年目で先生と同勤した職員も少なくなりましたが、今後も天からお見守りください。ご冥福をお祈り申し上げます。(地域医療支援課 東矢 義光)